

勸学かんがく
(陶淵明とうえんめい)
雑詩ざっしより

盛年不重來 一日難再晨

及時當勉勵 歲月不待人

盛年せいねん 重かさねて 来きたらず

解説 陶淵明作の雑詩の最後の四句。人間は時をのがすことなく行樂すべきであることを勧めた作であり、格言として、後人の教訓となっている。

一日いちじつ 再ふたたびび 晨あした なり難がたし

語釈 ※盛年Ⅱ二十から三十までのさかんな年。

※不重Ⅱ二度とは采ない。強い否定。※及時Ⅱよい機会をのがさずに。※勉勵Ⅱ充実した時を過ごすようにつとめ励む。

時ときに 及およんで 当まさに 勉勵べんれいすべし

通釈 若い時代は二度と来ないし、一日のうちに朝は二回は来ない。

よい機会をのがさずに、充実した時を過ごすようにつとめ励むべきだ。歲月はどんどん流れ去り、人を待つてはくれないのだから。

歲月さいげつは 人ひとを 待またず